

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201153
法人名	(株)シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	今治市古谷甲19番1
自己評価作成日	平成24年 10月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 11月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重視して日々の生活ケアに取り入れている。  
 「食事」・・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者と共に作業している。  
 「運動」・・・体操・散歩・余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。  
 「水分」・・・1日1500cc摂取を目標とし、徹底してチェックしている。  
 「排泄」・・・排便対策として運動・水分摂取に取り組んでいる。なるべく布パンツで生活できるよう、可能性を追求しながらケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念にある「自由に」ということを大事にし、自由に動ける安心感や選ぶ楽しみが持てるよう支援している。また、職員は、家庭的な雰囲気大切にしたいと考えており、利用者から様々なことを教えてもらうことも多く、自分の親と違って支援している。職員教育に力を入れており、外部研修を受講する機会を多く作ることで、管理者は職員の成長を感じている。利用者や家族とのコミュニケーションを大切に考えて、旅行をはじめ家族参加の行事に力を入れている。食事では、自家栽培した野菜を中心に新鮮な食材を使って調理し、旬の物をおいしく食べる取組を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわりの家

(ユニット名) えがお

記入者(管理者)  
氏名 和田京子

評価完了日 平成24年 10 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 常日頃より職員全員で一番大事にしたい事を話し合いながら、理念を共有し実践できるよう振り返りの実施を行っている。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念は、開設時に職員全員が言葉を出し合っ て作り上げたものである。「自由で笑顔のあるこ ころ通う生活をともにしましょう」という理念を常に意識しながら、利用者が自由な気持ちで生活できることを目指して話し合いを行い、支援にあたっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 保育園の園児たちの訪問や、地域の保育園・小学校の運動会を見に行き交流を図っている。また、地域のお祭りなど、地域の行事にはできるだけ参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 地域の保育園児が訪問して踊りを披露してくれたり、小学校の運動会を見に行っている。手話コーラス、フラダンス、紙芝居のボランティアの訪問もある。近隣の障がい者福祉施設とは、納涼祭やいもたき会など、ふれあいの機会を設けている。3年ほど前から地域にパンフレットを配布し納涼祭を開催している。</p>	事業所周辺には民家が少なく、日常的なつきあいがしにくいため、状況に応じた工夫が必要である。また、地域住民との交流を深め災害時等の協力体制が構築されるよう今後の取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の推進会では話し合いが出来ているが地域に活かす事は今は出来ていない。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) アドバイスいただいたことは職員間のミーティングで 話し合いサービス向上に繋がるよう努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、民生委員やボランティア代表者、 市職員、近隣の障がい者福祉施設職員の参加がある。 自治会と家族は仕事の都合で参加が難しい。会議では 災害対策について情報交換を行ったり、外部研修で学 んだことの報告会を行ったりしている。緊急情報を得 るために朝倉地区の有線放送を設置すると良いとの提 案があり、すぐに実現させた事例がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等で相談事にその都度快く対応して下さ っており、アドバイスもしていただき、応援して下さ っている。	
			(外部評価) 運営推進会議には市職員の参加があり、現状を知って もらう関係ができています。また、地域の人に事業所に 来てもらう機会として独自に納涼祭を行ってみてはど うかと市職員から提案があり、3年前から実践してい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はもちろん、夜間も玄関のみ施錠で身体拘束は 行っていない。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて職員全員が理解し共有 できている。外部研修を受講した職員は、報告を行っ ている。理念に掲げている「自由に」ということを職 員は常に意識しており、玄関や中庭に通ずる入り口に 鍵はかけていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員、虐待についての知識は理解しており、あってはならないこととして認識することができている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) いざという時に困らないよう、権利擁護の研修にも参加しており、職員全員が理解、活用できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約の際、十分な話し合いの場をもち、疑問点、不安な事があればその都度説明し、納得していただけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との電話連絡や面会の際、どんな些細な事でもお話いただき改善点があれば職員で話し合い、反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 普段から家族からの話を聞く機会を大切にしており、何でも話してもらえるように心がけている。利用者と家族と一緒に食事できる機会を作りたいとの思いから、家族会を設置し開催したときには全家族が参加している。日帰り旅行や一泊旅行を開催して家族との関係を深めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に職員の意見が届く環境にあり、その都度考慮し、希望に添える事、見直さなければならないこと等を検討している。  (外部評価) 管理者は職員が意見を出しやすい環境づくりを心がけている。職員は管理者に相談するとすぐに対応してくれるので信頼を置いている。管理者は出された意見等を代表者に伝えるようにしている。月2回の職員会がある。法人全体の勉強会が2か月に1回開かれ、接遇についての研修会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) やりがいを持って働けるよう、給料面やメンタル面の整備に努めている。長期労働者同士、旅行に出かけ、職員間の絆づくりにも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修の参加の実施。内容を皆で共有できるよう、ミーティング時には勉強会を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等で知り合った同業者を通じて、施設訪問させていただいている。参考にできる事は取り入れ質の向上に努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の要望や意見を十分に聞き、安心して生活が送れるように努めている。また、何でも話し、相談ができるよう信頼関係構築にも努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) いつでも連絡、面会できる体制をとっており、御家族様との信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込まれる際に話し合いの場を設け、どのような支援を必要としているか対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に支え合う気持ちを忘れず、喜怒哀楽を共にできる関係を築く努力をしている。できることからできる支援を実施している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族旅行、行事等に参加していただきながら一緒に過ごす時間を持ち、共に介護に関われるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と話し合い、協力を得ながら関係が途切れないように努めている。  (外部評価) 利用者の入居前からの知人や友人が訪ねてくる機会を楽しく過ごせるよう支援している。利用者や家族も高齢になり、馴染みの人や場の関係の把握が難しくなってきた面があるが、事業所自体が利用者にとっての新しい馴染みの場所となり、「ただいま」と言って帰れるようにと考えて、職員は支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支え合い笑顔あふれる生活が送れるよう職員や他の利用者との関係づくりに配慮している。家事や余暇活動を通しコミュニケーションが図れている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 困った事があればいつでも相談にのれる事を常日頃より家族に伝えている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中から本人の希望や思いを聞き出し、ミーティングで話し合いを持ち、その思いを家族にも伝えている。	
			(外部評価) コーヒータイムや休息しているゆったりとした時間に思いや外出の希望を話す利用者が多い。職員間でその思いを共有できるよう話し合いを行っている。利用者の楽しみにしている移動パン屋が月2回来て、好きなものを選ぶ楽しみを感じてもらえるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者からこれまでの生活歴や馴染みの暮らしを聞き、本人や家族の理解に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人にあつた日々の過ごし方をさせていただけるよう一人一人を十分に把握し、日々の支援に努めている。生活状況の記録、申し送り、日誌にて現状を把握できるよう職員間で情報共有している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化を把握した上で、ミーティングで話し合い、介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価) 介護計画とモニタリングは担当制で、担当職員は1か月の利用者の様子を織り込んだ介護計画を提案し、職員全員で意見交換をして計画を決定している。担当制をとることにより、利用者への日々の目配りが細くなり、職員間の発言率も上がった。モニタリングも同じ方法で1か月に1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別に記録している。申し送り、業務日誌、ミーティングなどで気付いた事を報告し共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望に応じ、可能な範囲で柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには、地域の民生委員や市の職員の方がおり、相談等の協力を得る事ができている。ボランティアの手話、フラダンス、紙芝居の公演を依頼している。地域の保育園とも交流を持つことができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 個々のかかりつけ医に必要な医療支援を継続して受け ている。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医に受診している利用者が多 い。基本的に受診介助は家族が行っている。受診報告 用紙を備えており、医療機関と家族、事業所が受診内 容を共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に看護職員と話し合いを持ち、情報や気 付きの把握に努めている。また、法人内看護師も常時 相談ができています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、家族の協力を得ながら、面会の機会をも ち不安の軽減に努めている。早期の退院がスムーズに できるよう、病院関係者や本人や家族と話し合い、積極 的な支援に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 進めていく方向ではあるが、医療との連携は現状難 しい。	終末期の支援については家族から要望もあるので、各 関係機関との連携や調整を行い、看取りに関する職員 の理解を深めて支援体制を整えるなど、さらなる取組 みに期待したい。
			(外部評価) 寝たきりになったりミキサー食になった場合や医療が 必要となる場合には、事業所での支援が難しくなると いう重度化や終末期の方針を、入居時に利用者や家族 に説明している。終末期の医療との連携について検討 を重ねている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年職員全員、消防署の応急手当講習を受け、実践力を身につけている。AEDを設置しており、全員が使えるよう講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時対策の研修等には積極的に参加している。  (外部評価) 火災に対する避難訓練を年2回実施し、夜間を想定した訓練も行っている。隣にある障がい者福祉施設に協力を要請し緊急時の協力体制ができている。タオル頭巾を作製し、常備している。3日分の備蓄食料品を備える予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を傷つけない声かけや接し方に努めながら、プライバシーの保護にも十分留意している。  (外部評価) 排泄時の声かけや介助方法には特に気を配り、プライバシーを損ねないよう心がけている。新人職員の教育においても徹底するようにしている。代表者が法人の倫理綱領を作成しており、安心と尊厳のある生活に対する思いが職員にも浸透している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常的に自己選択、自己決定の場がある。その人に合った支援を行っている。希望や願いを日常の中から引き出せるような支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常のコミュニケーションから、希望や要望を把握し、一人一人のペースを重んじた、柔軟な支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室などに行っている。その日の洋服は本人が納得いくよう、職員も一緒になって選ぶ。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 農園で出来た旬の野菜を使い、バランスの良い食事を提供している。入居者の意見も聞きながら献立を決め、管理栄養士にチェックしてもらっている。利用者と一緒に野菜を洗ったり、下ごしらえをしながら食事の準備や後片付けをおこなっている。	
			(外部評価) 毎日の食事は、事業所の畑や果樹園で採れたものや、管理者が毎朝市場で仕入れた魚介類などの新鮮な食材を使用して作っている。広い中庭で家族と一緒に焼肉や芋炊きをしたり、弁当を持って公園へ出かけたりと、食事を楽しむ工夫をしている。箸や茶碗、湯飲み、コーヒーカップを誕生日にプレゼントし、食事でも使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスを考えた食事を提供している。水分摂取量のチェックで少ない人に対してはゼリーや果物等で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、うがい等の声かけを行い実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレで排泄できるよう、定期的に声かけ、トイレ誘導を行っている。必要に応じてパットなどで対応することもあるが、日中はほとんど布パンツ中心で行っている。	
			(外部評価) 介助の必要な利用者については排泄パターンのチェック表を活用して、トイレ誘導を行っている。夜間のみパットを使用している利用者もいるが、基本的にはトイレで排泄できるよう心がけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分は、1日1300～1500cc摂取できるよう努めている。食事面では食物繊維を多く取り入れる工夫、毎日の運動（散歩等）を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日の入浴を勧めている。基本的にはホームのリズムに基づいているが、時間の調整をとったり、いつでも入浴出来るようにしている。	
			(外部評価) 毎日、午後3時半から利用者全員が入浴できるようにしている。通院などで午後の時間帯に入浴できなかった場合でも、夕食後に入浴するなどして個々に応じた入浴の支援を行っている。シャワー浴の利用者には足浴を行うようにして、温まることができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整える支援を心がけ、日中は活動支援を、夜間はゆっくり休めるよう努めている。一人一人の状況に応じて、昼間は休息がとれるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に基づき、薬の種類、内容を把握している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や日々の生活の中から出来る事、出来ない事を把握し、役割を見つけ、楽しんだり、気晴らしが出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は毎日行っている。年に何度かは外に出かけ、外食などをしている。利用者の希望を聞きながら、家族の協力を得て出かけられるようにしている。	
			(外部評価) 利用者は毎日散歩に出かけており、玄関外のベンチに腰掛けて休憩する外気浴も利用者の楽しみになっている。梅を見に出かけてうどんを食べて帰ったり、奥道後の菊花展や北条の道の駅に出かけたりしており、家族にも一緒に参加できるよう声をかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にはお小遣いを預かっている。定期的にパン屋さんやホームに来られ自分の好きな物を購入されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話、年賀状、暑中見舞いなどでやりとりが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 中庭を見渡すことができる大きな窓、自然の風や光を取り入れることができる。壁には季節の作品を飾っている。</p> <p>(外部評価) ユニットの棟はそれぞれ平屋のため移動は自由にできる。玄関には木製のテーブルや小物を置き、落ち着いた雰囲気を作っている。建物から広い芝生の中庭に自由に出ることができ、中庭では体操を行うこともある。食堂にピアノがあり、利用者やボランティアの人が弾いて皆の楽しみになっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや食卓、畳の部屋等で、思い思いに過ごされている。中庭や玄関先で休まれる方の為にベンチを設置している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) お使いになっていた箆笥や机等を持ってきていただいている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口に木製の表札を掲げている。居室には思い思いの好みのもを置いたり、仏壇を置くなど居心地よく過ごしている。朝食後には、利用者が各自の部屋をほうきや雑巾で掃除し、自宅のように使っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや居室の入り口には、分かりやすく表記している。タンスや持ち物等に表記している方もおいで。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201153
法人名	(株)シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	今治市古谷甲19番1
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 11月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重視して日々の生活ケアに取り入れている。  
 「食事」・・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者と共に作業している。  
 「運動」・・・体操・散歩・余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。  
 「水分」・・・1日1500cc摂取を目標とし、徹底してチェックしている。  
 「排泄」・・・排便対策として運動・水分摂取に取り組んでいる。なるべく布パンツで生活できるよう、可能性を追求しながらケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念にある「自由に」ということを大事にし、自由に動ける安心感や選ぶ楽しみが持てるよう支援している。また、職員は、家庭的な雰囲気大切にしたいと考えており、利用者から様々なことを教えてもらうことも多く、自分の親と思って支援している。職員教育に力を入れており、外部研修を受講する機会を多く作ることで、管理者は職員の成長を感じている。利用者と家族とのコミュニケーションを大切に考えて、旅行をはじめ家族参加の行事に力を入れている。食事では、自家栽培した野菜を中心に新鮮な食材を使って調理し、旬の物をおいしく食べる取組を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		





(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 常日頃より職員全員で一番大事にしたい事を話し合いながら、理念を共有し実践できるよう振り返りの実施を行っている。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念は、開設時に職員全員が言葉を出し合っ て作り上げたものである。「自由で笑顔のあるこ ころ通う生活をともにしましょう」という理念を常に意識しながら、利用者が自由な気持ちで生活できることを目指して話し合いを行い、支援にあたっている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 保育園の園児たちの訪問や、地域の保育園・小学校の運動会を見に行き交流を図っている。また、地域のお祭りなど、地域の行事にはできるだけ参加するようにしている。</p> <p>(外部評価) 地域の保育園児が訪問して踊りを披露してくれたり、小学校の運動会を見に行っている。手話コーラス、フラダンス、紙芝居のボランティアの訪問もある。近隣の障がい者福祉施設とは、納涼祭やいもたき会など、ふれあいの機会を設けている。3年ほど前から地域にパンフレットを配布し納涼祭を開催している。</p>	事業所周辺には民家が少なく、日常的なつきあいがしにくい ため、状況に応じた工夫が必要である。また、地域住民との交流を深め災害時等の協力体制が構築されるよう今後の取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の推進会では話し合いが出来ているが地域に活かす事は今は出来ていない。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) アドバイスいただいたことは職員間のミーティングで 話し合いサービス向上に繋がるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、民生委員やボランティア代表者、 市職員、近隣の障がい者福祉施設職員の参加がある。 自治会と家族は仕事の都合で参加が難しい。会議では 災害対策について情報交換を行ったり、外部研修で学 んだことの報告会を行ったりしている。緊急情報を得 るために朝倉地区の有線放送を設置すると良いとの提 案があり、すぐに実現させた事例がある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会等で相談事にその都度快く対応して下さ っており、アドバイスもしていただき、応援して下さ っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には市職員の参加があり、現状を知っ てもらう関係ができています。また、地域の人に事業所 に来てもらう機会として独自に納涼祭を行ってみてはど うかと市職員から提案があり、3年前から実践してい る。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中はもちろん、夜間も玄関のみの施錠で身体拘束は 行っていない。</p> <p>(外部評価) 身体拘束をしないケアについて職員全員が理解し共有 できている。外部研修を受講した職員は、報告を行っ ている。理念に掲げている「自由に」ということを職 員は常に意識しており、玄関や中庭に通ずる入り口に 鍵はかけていない。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員、虐待についての知識は理解できており、あってはならないこととして認識している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) いざという時に困らないよう、権利擁護の研修にも参加しており、職員全員が理解、活用できるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約の際、十分な話し合いの場をもち、疑問点、不安な事があればその都度説明し、納得していただけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族との電話連絡や面会の際、どんな些細な事でもお話いただき改善点があれば職員で話し合い、反映できるよう努めている。  (外部評価) 普段から家族からの話を聞く機会を大切にしており、何でも話してもらえようように心がけている。利用者と家族と一緒に食事できる機会を作りたいとの思いから、家族会を設置し開催したときには全家族が参加している。日帰り旅行や一泊旅行を開催して家族との関係を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 常に職員の意見が届く環境にあり、その都度考慮し、希望に添える事、見直さなければならないこと等を検討している。  (外部評価) 管理者は職員が意見を出しやすい環境づくりを心がけている。職員は管理者に相談するとすぐに対応してくれるので信頼を置いている。管理者は出された意見等を代表者に伝えるようにしている。月2回の職員会がある。法人全体の勉強会が2か月に1回開かれ、接遇についての研修会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) やりがいを持って働けるよう、給料面やメンタル面の整備に努めている。長期労働者同士、旅行に出かけ、職員間の絆づくりにも努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修の参加の実施。内容を皆で共有できるよう、ミーティング時には勉強会を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等で知り合った同業者を通じて、施設訪問させていただいている。参考にできる事は取り入れ質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の要望や意見を十分に聞き、安心して生活が送れるように努めている。また、何でも話し、相談ができるよう信頼関係構築にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) いつでも連絡、面会できる体制をとっており、御家族様との信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 申し込まれる際に話し合いの場を設け、どのような支援を必要としているか対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に支え合う気持ちを忘れず、喜怒哀楽を共にできる関係を築く努力をしている。できることからできる支援を実施している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族旅行、行事等に参加していただきながら一緒に過ごす時間を持ち、共に介護に関われるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と話し合い、協力を得ながら関係が途切れないように努めている。  (外部評価) 利用者の入居前からの知人や友人が訪ねてくる機会を楽しく過ごせるよう支援している。利用者や家族も高齢になり、馴染みの人や場の関係の把握が難しくなってきた面があるが、事業所自体が利用者にとっての新しい馴染みの場所となり、「ただいま」と言って帰れるようにと考えて、職員は支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支え合い笑顔あふれる生活が送れるよう職員や他の利用者との関係づくりに配慮している。家事や余暇活動を通しコミュニケーションが図れている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 困った事があればいつでも相談にのれる事を常日頃より家族に伝えている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話の中から本人の希望や思いを聞き出し、ミーティングで話し合いを持ち、その思いを家族にも伝えている。	
			(外部評価) コーヒータイムや休息しているゆったりとした時間に思いや外出の希望を話す利用者が多い。職員間でその思いを共有できるよう話し合いを行っている。利用者の楽しみにしている移動パン屋が月2回来て、好きなものを選ぶ楽しみを感じてもらえるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者からこれまでの生活歴や馴染みの暮らしを聞き、本人や家族の理解に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その人にあった日々の過ごし方をさせていただけるよう一人一人を十分に把握し、日々の支援に努めている。生活状況の記録、申し送り、日誌にて現状を把握できるよう職員間で情報共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化を把握した上で、ミーティングで話し合い、介護計画の作成に努めている。	
			(外部評価) 介護計画とモニタリングは担当制で、担当職員は1か月の利用者の様子を織り込んだ介護計画を提案し、職員全員で意見交換をして計画を決定している。担当制をとることにより、利用者への日々の目配りが細くなり、職員間の発言率も上がった。モニタリングも同じ方法で1か月に1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別に記録している。申し送り、業務日誌、ミーティングなどで気付いた事を報告し共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望に応じ、可能な範囲で柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには、地域の民生委員や市の職員の方がおり、相談等の協力を得る事ができている。ボランティアの手話、フラダンス、紙芝居の公演を依頼している。地域の保育園とも交流を持つことができている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 個々のかかりつけ医に必要な医療支援を継続して受け ている。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医に受診している利用者が多 い。基本的に受診介助は家族が行っている。受診報告 用紙を備えており、医療機関と家族、事業所が受診内 容を共有できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に看護職員と話し合いを持ち、情報や気 付きの把握に努めている。また、法人内看護師も常時 相談ができています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、家族の協力を得ながら、面会の機会をも ち不安の軽減に努めている。早期の退院がスムーズに できるよう、病院関係者や本人や家族と話し合い、積極 的な支援に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 進めていく方向ではあるが、医療との連携は現状難 しい。	終末期の支援については家族から要望もあるので、各 関係機関との連携や調整を行い、看取りに関する職員 の理解を深めて支援体制を整えるなど、さらなる取組 みに期待したい。
			(外部評価) 寝たきりになったりミキサー食になった場合や医療が 必要となる場合には、事業所での支援が難しくなると いう重度化や終末期の方針を、入居時に利用者や家族 に説明している。終末期の医療との連携について検討 を重ねている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年職員全員、消防署の応急手当講習を受け、実践力を身につけている。AEDを設置しており、全員が使えるよう講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時対策の研修等には積極的に参加している。  (外部評価) 火災に対する避難訓練を年2回実施し、夜間を想定した訓練も行っている。隣にある障がい者福祉施設に協力を要請し緊急時の協力体制ができている。タオル頭巾を作製し、常備している。3日分の備蓄食料品を備える予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を傷つけない声かけや接し方に努めながら、プライバシーの保護にも十分留意している。  (外部評価) 排泄時の声かけや介助方法には特に気を配り、プライバシーを損ねないよう心がけている。新人職員の教育においても徹底するようにしている。代表者が法人の倫理綱領を作成しており、安心と尊厳のある生活に対する思いが職員にも浸透している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常的に自己選択、自己決定の場がある。その人に合った支援を行っている。希望や願いを日常の中から引き出せるような支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常のコミュニケーションから、希望や要望を把握し、一人一人のペースを重んじた、柔軟な支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけの美容室などに行っている。その日の洋服は本人が納得いくよう、職員も一緒になって選ぶ。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 農園で出来た旬の野菜を使い、バランスの良い食事を提供している。入居者の意見も聞きながら献立を決め、管理栄養士にチェックしてもらっている。利用者と一緒に野菜を洗ったり、下ごしらえをしながら食事の準備や後片付けをおこなっている。	
			(外部評価) 毎日の食事は、事業所の畑や果樹園で採れたものや、管理者が毎朝市場で仕入れた魚介類などの新鮮な食材を使用して作っている。広い中庭で家族と一緒に焼肉や芋炊きをしたり、弁当を持って公園へ出かけたりと、食事を楽しむ工夫をしている。箸や茶碗、湯飲み、コーヒーカップを誕生日にプレゼントし、食事でも使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスを考えた食事を提供している。水分摂取量のチェックで少ない人に対してはゼリーや果物等で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、うがい等の声かけを行い実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレで排泄できるよう、定期的に声かけ、トイレ誘導を行っている。必要に応じてパットなどで対応することもあるが、日中はほとんど布パンツ中心で行っている。	
			(外部評価) 介助の必要な利用者については排泄パターンのチェック表を活用して、トイレ誘導を行っている。夜間のみパットを使用している利用者もいるが、基本的にはトイレで排泄できるよう心がけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分は、1日1300～1500cc摂取できるよう努めている。食事面では食物繊維を多く取り入れる工夫、毎日の運動（散歩等）を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日の入浴を勧めている。基本的にはホームのリズムに基づいているが、時間の調整をとったり、いつでも入浴出来るようにしている。	
			(外部評価) 毎日、午後3時半から利用者全員が入浴できるようにしている。通院などで午後の時間帯に入浴できなかった場合でも、夕食後に入浴するなどして個々に応じた入浴の支援を行っている。シャワー浴の利用者には足浴を行うようにして、温まることができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整える支援を心がけ、日中は活動支援を、夜間はゆっくり休めるよう努めている。一人一人の状況に応じて、昼間は休息がとれるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋に基づき、薬の種類、内容を把握している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や日々の生活の中から出来る事、出来ない事を把握し、役割を見つけ、楽しんだり、気晴らしが出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩は毎日行っている。年に何度かは外に出かけ、外食などをしている。利用者の希望を聞きながら、家族の協力を得て出かけられるようにしている。	
			(外部評価) 利用者は毎日散歩に出かけており、玄関外のベンチに腰掛けて休憩する外気浴も利用者の楽しみになっている。梅を見に出かけてうどんを食べて帰ったり、奥道後の菊花展や北条の道の駅に出かけたりしており、家族にも一緒に参加できるよう声をかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にはお小遣いを預かっている。定期的にパン屋さんやホームに来られ自分の好きな物を購入されている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話、年賀状、暑中見舞いなどでやりとりが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 中庭を見渡すことができる大きな窓、自然の風や光を取り入れることができる。壁には季節の作品を飾っている。</p> <p>(外部評価) ユニットの棟はそれぞれ平屋のため移動は自由にできる。玄関には木製のテーブルや小物を置き、落ち着いた雰囲気を作っている。建物から広い芝生の中庭に自由に出ることができ、中庭では体操を行うこともある。食堂にピアノがあり、利用者やボランティアの人が弾いて皆の楽しみになっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや食卓、畳の部屋等で、思い思いに過ごされている。中庭や玄関先で休まれる方の為にベンチを設置している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) お使いになっていた箆笥や机等を持ってきていただいている。</p> <p>(外部評価) 居室の入り口に木製の表札を掲げている。居室には思い思いの好みのもを置いたり、仏壇を置くなど居心地よく過ごしている。朝食後には、利用者が各自の部屋をほうきや雑巾で掃除し、自宅のように使っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや居室の入り口には、分かりやすく表記している。タンスや持ち物等に表記している方もおいで。</p>	